

中1 親子ホームルーム（いのちの授業②）生徒感想

～ 生徒ポートフォリオより ～



➤ 話し合いを通して、前回の動画や絵本とは違う実際に経験した出来事をお母さんたちから聞くことができ、とても貴重な経験になりました。私たち生徒からの「あなたにとって私はどのような存在ですか」という質問に涙ぐみながらお話をしてくださった方もいて、我が子に対する深い愛を感じ、私まで少し涙目になりました。私たちがした質問にすごく思いを込めて回答してくださって、私たち子どもへの愛情と、「何が何でも守りたい」という熱い思いが伝わってきました。私も将来お母さんになった時は、今日お話ししたお母さんたちのように、我が子を愛するようになりたいとも思いました。これから先どんなことがあっても、まっすぐに素直に育ててほしいという家族の願い(思い)を背負って、いろいろなことに挑戦し、経験を積んでいきたいと思います。

- 保護者の方々のお話を聞いて、改めて私たちは大切にされていることを実感しました。子どもが生まれてきたときの気持ちなどはそれぞれ違うけれど、ここまで愛情を持って育ててきてくれたことは皆同じだと分かりました。お母様方は、陣痛が来たときのことや生まれてくるまでのこととお話してくれました。生まれるまでにかかった時間は 8 時間だったり 16 時間だったりと人によって差があって、それぞれ違うことが分かりました。私はお母様方に名前の由来を聞きました。家族の名前からとったり、ある物語からとったり、生まれてくる子への願いを込めていたり、それぞれに愛のこもった名前だと思いました。また同じ班の人が「命とは何だと思いますか」と質問しました。すると、お母様たちも少し悩んでいました。大人でも難しいことで、簡単には言葉で表すことのできないものなのだと私は思いました。いのちの授業を通して、子どもを産むことの大変さ、命の大切さを知ることができました。家族や友達を大切にして、感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思いました。
- 私は友達のお母さんがお話をしながら涙を流していたのが印象的です。お母さんがどれだけ自分の子を大切にしているのかが伝わりました。また、「自分の子どもたちがいないからこそ言えること」と言って、お母さんたちが子どもたちのことを「大切に、宝物で、大好きな存在」と言っていたので、それを友達にも伝えたくくなりました。初めはとても緊張したけど、お母さんたちがたくさんお話をしてくれて、私たちもたくさん話すことができ嬉しかったです。お母さんたちは、「子どもが風邪や病気になった時、自分の命より大切にしたいと思う」「自分の命に代えられる」と言っていたのを聞いて、私のお母さんもそうかな？と嬉しくなりました。お母さんたちがとってもとっても大切に育ててくれた命なので、私も大切にしていきたいと思いました。今回の授業では、お母さんたちの愛の大きさや、どれだけ大切に育ててくれているのかが分かった良い授業でした。
- 初めて参加した親子ホームルームはとても充実していました。私はまだ日本語が上手に話せないのも、最初はとても緊張していましたが、お母さんたちが親切に、優しくしてくれたのでリラックスすることができました。子どもを産む前の気持ちや初めて子どもを見たときのことについて話してくれました。その中の一人のお母さんが子どもを産むときの心配事を話してくれ、とても興味深かったです。母性愛はとても偉大だと思いました。この親子ホームルームは、命のありがたさを痛感させてくれ、親の愛を理解させてくれました。この愛を大切に、明るく、人に優しく、もっといい自分になりたいと思いました。
- 保護者の方々にもそれぞれいろいろな悩みがあって、その悩みを自分なりに解決していてすごいと尊敬しました。人によって、初めての子どもだったり、2人目3人目の子どもだったり、いろいろな違う体験談が聞けたので、よい勉強になりました。たくさんの苦労があり、疲れたりしても、「自分の子どものためならどんなに大変でも頑張れる」という話を聞いて、親の子どもへの愛ってすごく大きいんだと感動しました。普段から感謝の気持ちを伝えるのは恥ずかしくてできないことが多いので、せめて日頃の生活から感謝の気持ちを忘れないよう気をつけようと思いました。
- 今回のホームルームはとても良い機会でした。自分の親からはいくらでも話が聞けるけど、他の親御さんと話す機会はほとんどないので、とても貴重な時間でした。話を聞く前は、出産の痛さなどはみんな同じだと思っていましたが、つわりがとてひどかった人もいれば、あまりひどくなかった人や、陣痛が 12 時間

もあつた人や、陣痛の来るお薬を飲んでいた人など、みんな全然違ってびっくりしました。自分の身近な友達の名前の由来なども聞くことができ、不思議な気持ちになりました。親御さんからの質問で、「反抗期の子どもにはどんなふうに接すればいいですか」と聞かれ、親御さんたちはいつもこんなことに悩みながら私たちに声をかけてくれたのかと思うと、親に反抗する気持ちも薄れてきました。そしてもっと親に感謝しようと思いました。命についてこんなに深く考える機会は今までなく、とても良い機会になりました。これからも命を大切にしていこうと思いました。

- 話し合いを通して、自分が考えていたのとはまた少し違った意見を聞くことができました。「命は尊いもの」という思いはみんな同じでしたが、親の視点から良いと思ってしたことが子どもの視点から見ると上手くいっていなかったり、意見がよじれて、いつの間にかどちらかの考えを押し付けてしまったりすることもあることがお話を通じてだんだんと分かってきました。しかし、だからこそ成長して、工夫を重ねて解決したり、お互いに認め合ったりと良い方向へもっていくことができたという経験談も聞くことができました。このことを聞いて、理想が必ずしもうまくいくわけではないけれど、つまづけたからこそ新しい発見や経験ができて、親として、人として、成長していけるのではないかと思います。親と子のことが分かる機会はなかなかないので、良い経験ができ、新しい発見になりました。